

令和6年度 園評価

静岡市厚生事業協会 北沼上こども園

評価段階（A:大変良い B:まあまあ良い C:あまり良くない D:全く良くない）

項 目	評価指標	評価	取り組み状況
組織体制の充実	組織の一員として役割を自覚し、責任を持って取り組んでいる	A	階層別に反省点があるが、それぞれが組織の一員としての役割を意識している。役割を明確にするため職務分掌を整備した。
安全管理	非常時における意識や安全な行動が身に付いている	B	計画的に防災訓練を実施した。課題について職員間で共有する時間を確保し更に意識を高めた。 ケガについて危機感を持ち対応できた。
保健衛生	室内や備品等の消毒や掃除を行い衛生管理に気をつけている	B	掃除・消毒は、保育補助者の採用もあり、園内及び園舎周り清潔に保つことができた。また、感染症が発症した際は丁寧に消毒し感染拡大を防止することができた。
研修体制の充実	園内研修や園外の研修に参加したり報告を見たりして学びを深めている	A	園外の研修については、職員の確保が難しく多く参加出来なかったが、園内の研修で公開保育、階層別研修等を定期的実施した。 また外部講師が園に来て観察し、環境や保育の進め方について具体的な指導を受け改善できた。
職員間の相互理解・協働	情報の共有をしたり、分担したりし、職員同士の理解に努めている	B	クラス担任だけでなく、短時間パート職員も含めて子どもの様子や関わりについて話し合いを行い、情報共有することを心掛けた。
保護者理解	守秘義務に配慮している。保護者のことを安易に話題にしない	C	保護者との面談を実施し、家庭の様子と園の様子を共有する。相談や情報に対して守秘義務の配慮は概ねできた。 配慮の必要な子への対応について、保護者からご意見をいただいた。園としては合理的配慮だと考えていたが、反省すべきであった。
重点目標の理解	今年度の重点目標を理解している（友達と協力する子）	B	園児が安心した生活の中で自分の思いを表現したり友だちの気持ちに気付いたり出来るようになり、様々な活動を通して友達と一緒に意欲的に活動し協力する姿がみられた。

資質・専門性の向上	専門性の向上に努めている	B	教育・保育要領を定期的に読み、確認することが意識できてきた 園内外の研修に参加した
子どもの育ち	日々の振り返りで気付いたことや課題等が指導計画に反映させ実践できている	B	園内で公開保育を計画的に実施した。また、公立園の公開保育に積極的に参加し保育の進め方や記録の方法など学ぶことができた。振り返りの大切さに気付き指導計画の立て方に工夫が見られるようになった。
	季節を感じたり、発達に応じた遊びが出来たりする環境や子どもが主体的に活動できる環境を用意している	B	身近な自然を活用し、川遊びや虫探しなどを体験できる機会を設けた。また、子どもがどんなことに興味を持っているかを捉え、主体的に活動できるように努めた。
保育環境	子どもの気持ちに気付いている	B	保育教諭同士、子どもについて話し合い、互いの保育について話したり振り返ったりしている
	対話を通じた学び合いや子どもの姿や保育の捉え直しができている	B	子どもの気持ちに共感したり、見守ったりすることで、自分の気持ちを表現できるようになり新たな気付きがある。子どもの思いを決めつけないように常に心掛けた。

成果と課題

成果	組織体制の充実を図るため職員の分掌を整備した。分かりやすくしたことで、人材育成に繋げていく。 また、公開保育を充実させ質の高い保育・教育を提供できるようにした。子どもの姿から気持ちや思いを汲み取り関わり方や伝え方などを話し合い、教育保育要領で基本を確認できた。保育教諭だけでなく、全ての職員で取り組むことができた。
課題	保護者理解に反省すべき点があった。さまざまな研修に参加したり保護者の意見を聞く機会を増やしたりしてお互いに納得できるようにする。また、園の取り組みを保護者に伝える機会（参観や行事）を増やし、子どもや保育者の姿を見ていただき成長発達を共に感じるようにしていく。 保育者が子どもに向き合う時間を確保出来るよう、引き続き業務改善に努める。